

地域の住民・企業向け

今後のローカル鉄道のあり方について、

地域で考え、 行動するための ヒント集

鉄道は、地域の交通を支える身近なインフラですが、専門性が高く、地域の住民や企業、団体の皆様にとって、関わりづらいものでした。

こうした中で近年では、人口減少とモータリゼーションで利用者が減少していたところ、コロナ禍でそのスピードが加速しており、鉄道の維持について、

地域の皆様に期待される役割が大きくなっています。

この冊子は、地域で鉄道を考え、行動するためのヒントをまとめたものです。



令和5年3月

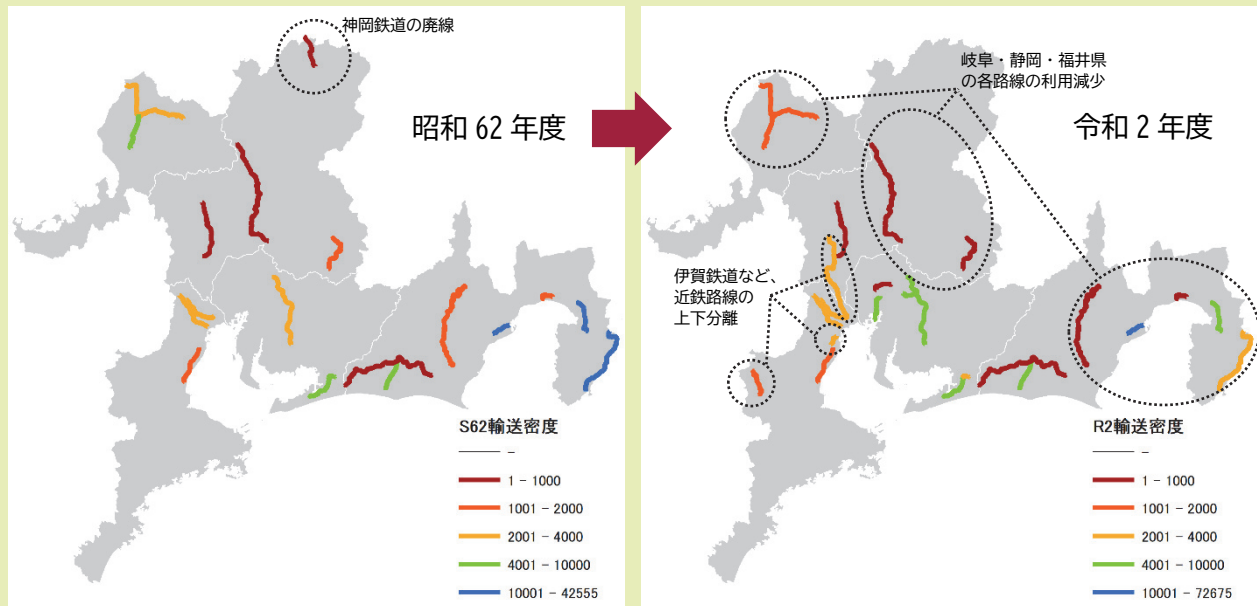
国土交通省 中部運輸局

ローカル鉄道を取り巻く環境

地方で特に厳しい鉄道の状況

ローカル鉄道は、人口減少とモータリゼーション等で厳しい環境に置かれており、特に過疎化が進んだ地方ほど顕著となっています。

中小事業者の各路線の輸送密度（人/日）



資料：鉄道統計年報より作成

鉄道が地域にある意味

福井県では、平成 12～13 年に京福電鉄による 2 度の事故が発生したため、運行停止の命令が下され、2 年間にわたって代行バスが運行されました。

その間、マイカー利用が急増して渋滞が発生し、通勤通学など住民の生活に大きな支障が出てしまいました（「負の社会実験」）。

そのため、地域から復活の声が上がったことから、地元の行政や企業などが出資し、えちぜん鉄道として再生させることとなりました。

このように鉄道は多くの人の移動を支えるインフラであり、なくなることで生活に大きな影響が出ます。

また、大量輸送が特徴であるため、駅には多くの人が集まり、地域の賑わいの拠点にもすることができます。その他にも、交通事故の抑止や環境面の効果なども見込まれます。

一部の「ローカル鉄道」では大量輸送機関としての特性が発揮されていない

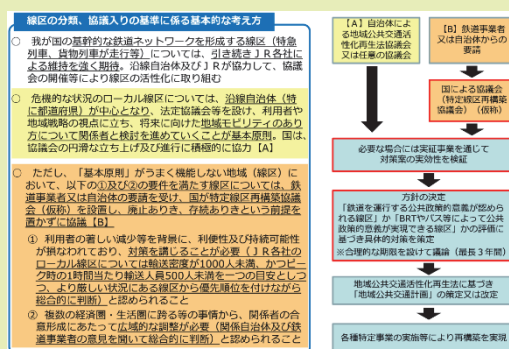
大量輸送が特徴の鉄道ですが、線路の維持や安全対策などを行うため、毎年多額の維持コストがかかる事業でもあります。

そのため、維持コストに見合うだけの効果が出ないのであれば、将来を見据えて最適な交通手段に変えた方が、地域にとって良いケースもあり得ます。

地域による議論が求められています

こうした中で、国土交通省では「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」をふまえ、ローカル鉄道の今後のあり方を議論するため、自治体と鉄道事業者で協議会の設置を推進していくことが示されました。

「鉄道事業者と地域の協働による 地域モビリティの刷新に関する検討会」の提言



ローカル鉄道の維持・活性化に向けて、鉄道事業者も一生懸命取り組んでいるところですが、それを上回るペースで利用者が減少しているのが実態です。

鉄道路線の今後のあり方を鉄道事業者だけに任せるのではなく、**鉄道を地域でどう使い、どう維持していくか、それとも違う手段にするかについて、地域と鉄道事業者で議論することが求められる**ようになりました。

地域が元気でない限り、鉄道の利用者は増えません。駅を中心とした地域づくりなど、鉄道事業者と地域が一緒に取り組んでいく姿勢が求められます。

今後のローカル鉄道のあり方を地域で考える際の関係者の役割

地域の皆様、行政、鉄道事業者は、いずれも今後のローカル鉄道のあり方を考える主体です。その際の関係者の役割について、以下のとおりまとめました。



地域の皆様

公共交通を積極的に利用する
仲間と一緒に関係者に働きかける

地域にある公共交通を積極的に利用します。

また、自分たちにとって利用しやすくするため、イベントの企画・実施・参加などを通じて、地域の機運づくりや行政・鉄道事業者への働きかけを行います。

一人一人の発言は小さいですが、地域の総意を作って関係者を動かしていくのは、地域の皆様の発意から始まります。



行政

地域に適した交通を考える
地域の活動を支援する

(市町村・県)

地域のニーズや鉄道事業者の実情をふまえ、地域と鉄道事業者の橋渡しをしながら地域に適した交通体系を検討します。

また、地域の活動を支援する役割も期待されます。

(国)

地域で作られる協議会において、情報提供や関係者調整など、積極的に関与します。

(場合によっては自ら協議会を設置します。)



鉄道事業者

公共交通サービスを提供する
必要な情報を提供する

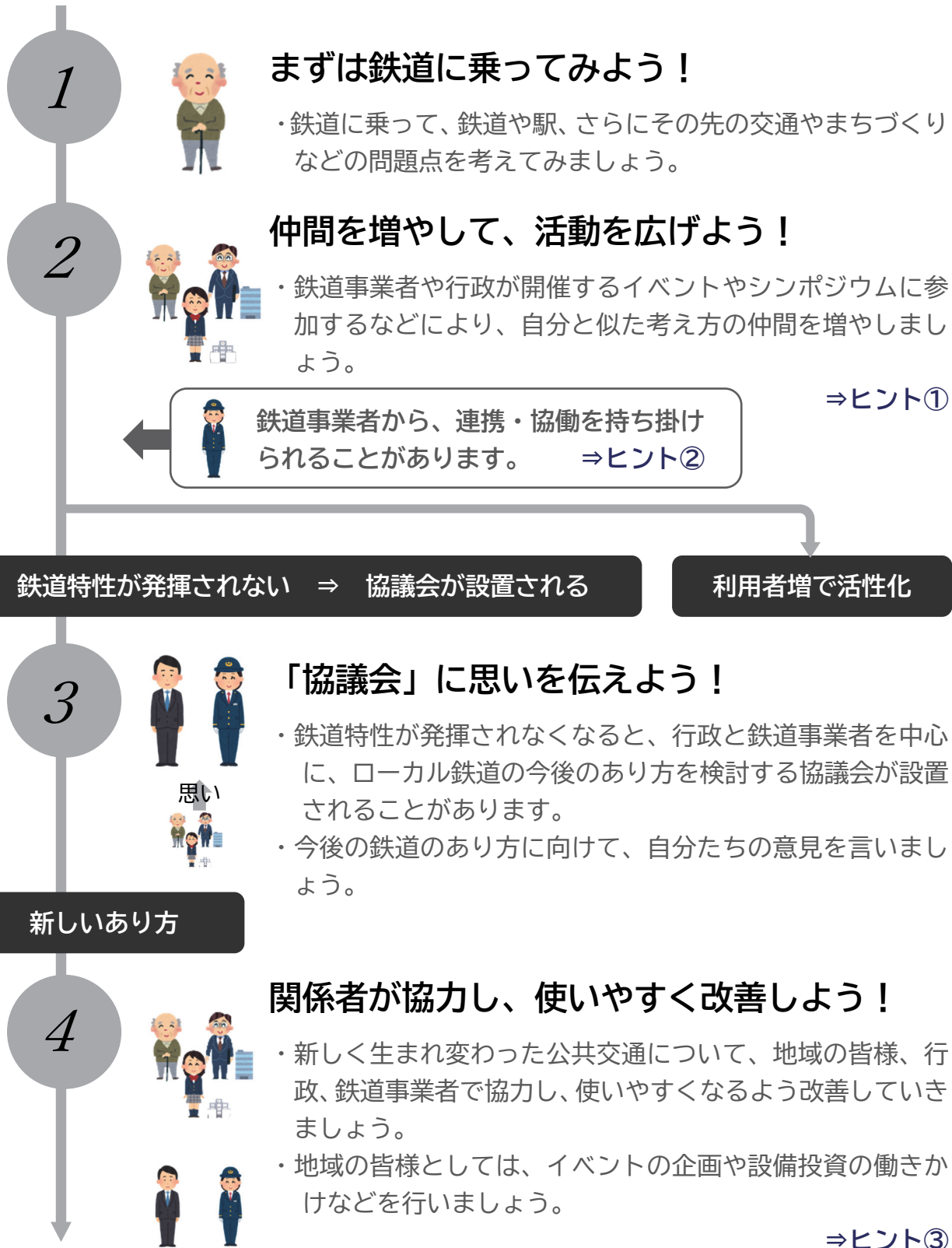
公共交通サービスの提供などにより、地域の発展に貢献します。

また、地域の交通やまちづくりのあり方を考えるため、必要に応じて情報を提供します。

地域の皆様が、今後の鉄道のあり方を考える際のフロー

地域の皆様が鉄道のあり方について考える際のフローをまとめました。

大きな検討は県や市町村が中心に行うこととなりますが、そのための機運づくりや駅の活用などは、地域の皆様にご活躍いただきたい場面となります。



地域で考え、行動するためのヒント集

ヒント①：仲間を増やして、活動を広げよう！

駅は地域の玄関口であり、毎日多くの人が通ることから、町内会やボランティアグループなどにより、美化活動や高校の美術作品の展示会などが全国の駅で行われています。

そこからさらに進んで、会費を集めてイベント列車を走らせるケースや、行政に働きかけて地域のまちづくりの拠点として大胆にリニューアルするケースも見られています。

地元の住民と企業による「駅を中心としたまちづくりにより、地域を活性化」

J R西日本「太市駅」(姫路市)



地域に知ってもらって、今後のあり方を考えてもらう「市内線プロジェクト」

(豊橋鉄道)



ヒント③：関係者が協力し、使いやすく改善しよう！

えちぜん鉄道や名鉄西尾・蒲郡線では、鉄道の危機的状況のときに行政と鉄道事業者の協議会が設置され、維持が決まった後で、地元行政が事務局の応援団が組織されました。

こうした応援団に参加して、鉄道や地域の活性化に取り組んでみましょう。

沿線市町とサポート団体による毎月の「沿線サポート団体連絡会議」

(えちぜん鉄道)



利用促進に向けた沿線協議会の設置と支援団体による啓発活動

(西尾市・蒲郡市)



ヒント②：鉄道事業者からの連携・協働の意向をキャッチしよう！

鉄道事業者に聞くと、鉄道事業者は以前より地域との連携・協働に積極的に取り組むようになっています。こうした鉄道事業者側からの意向をキャッチし、地域にとって活かしていきましょう。

地元出身絵本作家の絵が目を引く 藤井寺駅の 100 周年記念事業

近畿日本鉄道「藤井寺駅」(藤井寺市)



高校生を対象とした 津波避難訓練の共同実施

(尾鷲高校)



学生からの持ち込み企画を丁寧に広げ、 沿線の魅力を高める

(遠州鉄道)



2 か月に 1 度の 観光定例ミーティングによる綿密な連携

(志摩市)



地域の企業・団体を巻き込むイベントを 開催し、地域での存在感をアピール

(静岡鉄道)



地域に知ってもらって、今後のあり方を 考えてもらう「市内線プロジェクト」

～再掲～

(豊橋鉄道)



鉄道事業者と連携・協働したい場合は？

駅の活用をはじめとする地域との連携・協働について、いずれの鉄道事業者も前向きに考えています。

地域として、連携・協働の意向がございましたら、まずは地元の市町村にお話してください。そのうえで、中部運輸局にご相談いただければ、市町村と鉄道事業者をおつなぎします。

鉄道特性が発揮できないことが見込まれる場合は？

大量輸送という鉄道の特性が活かせなくなっている地域については、地域の新しい公共交通のあり方を検討しても良いでしょう。

この「ヒント集」は、そうした議論を妨げるものではありません。地域の将来の姿を見据え、地域に適した交通体系を地域で考えてみましょう。

【発行】 国土交通省 中部運輸局

〒460-8528 愛知県名古屋市中区三の丸 2-2-1 名古屋合同庁舎第1号館

TEL 052-952-8006（交通企画課）

ホームページ <https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/index.html>